

冬を越す生物

■世代が異なるカワザンショウガイのなかま

気温が下がり、生物は冬越しに入っている。石の下にはたくさんのカワザンショウガイの仲間が観察された。明確に大きさが異なり、世代が異なることが推察される (Fig.1)。

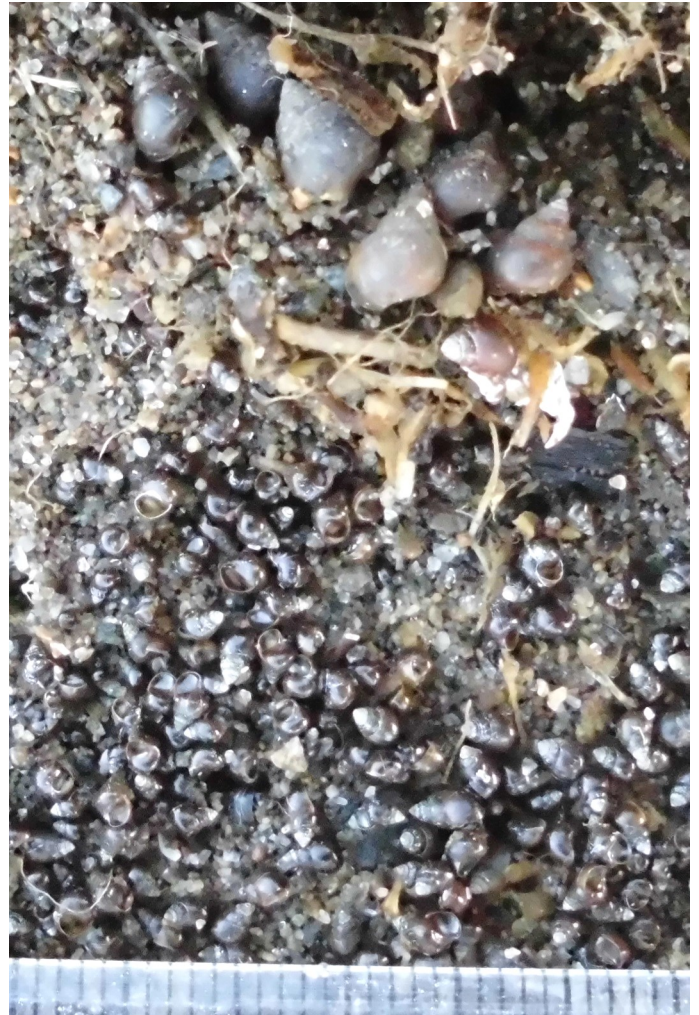
■気温が下がったことによる

生物の活性の低下

先月と同様、水中に餌を投入して生物の様子を観察した (レポートNo.376参照)。生物の活性は下がっており、先月と比較して数は少なく、集まるまでの時間も長くなっていた。ヌマチチブやシマハゼの仲間、ケフサイソガニを確認した (Fig.2)。



(Fig.2 餌に集まる生物)



(Fig.1 石の下にいたカワザンショウガイの仲間)

■ゴカイの仲間の巣穴

潮の引いた干潟には多くの巣穴が見られる (Fig.3)。ゴカイの仲間 (Fig.4)の巣穴で、巣穴が水中にあるときは水の動きが観察できる。多くの生物の餌となり、干潟に集う生物を支える存在である。



(Fig.3 ゴカイの巣穴)



(Fig.4 巣穴から採集したゴカイの仲間)